

松本市・山形村・朝日村中学校組合議会
第 1 回 定 例 教 育 委 員 会

令和 6 年 6 月 7 日（金）午後 3 時 0 0 分開会

議事日程

第 1 開 会

第 2 教育長挨拶

第 3 議 事

議案第 1 号 県教育委員会と松本市・山形村・朝日村中学校組合教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の取り交わしについて

議案第 2 号 鉢盛中学校における部活動の地域移行について

報告第 1 号 令和 6 年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会第 1 回臨時会の日程について

報告第 2 号 令和 6 年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会第 1 回臨時会提出予定議案について

報告第 3 号 いじめの現状と対応について

報告第 4 号 「体罰に係る実態把握調査」の結果について

報告第 5 号 不登校の現状と対応について

第 4 その他

第 5 閉 会

出席委員（5 名）

教 育 長 伊佐治 裕 子

教 育 委 員 根 橋 範 男

教 育 委 員 村 山 晴 美

教 育 長 百 瀬 司 郎
職務代理者

教 育 委 員 中 村 八重美

事務局職員出席者

事 務 局 長 赤 羽 志 穂

事 務 局 次 長 小 西 え み

次 長 補 佐 降 旗 基

次 長 補 佐 牧 垣 孝 一

山 形 村 藤 澤 洋 史

中 学 校 長 中 川 満 英

事務局次長 坂 口 俊 樹

事務局次長 西 澤 弘

次 長 補 佐 伏 見 宏 美

主 事 三 浦 佑 太

朝 日 村 上 條 靖 尚

総 括 幅 誠一郎
コーディネーター

◎開 会

○教育長（伊佐治裕子） 皆さん、大変お待たせしました。定刻になりましたので、令和6年度松本市・山形村・朝日村中学校組合第1回の定例教育委員会を開会したいと思います。

◎教育長挨拶

○教育長（伊佐治裕子） 今年度初めてということで、第1回ということです。この前やったばかりのような、そんな感じがいたしますけれども。

改めまして、本年度スタートして2か月ということなのですが、ご承知かと思うんですが、松本市でこの4月からインクルーシブセンターという発達障害の子供たちと、それから、医ケア児の子供たちなどを切れ目なく支援していくためのセンターというのができました。2回ほど私も連絡会議に出させてもらったんですけれども、いろんな職種の方が連携をして、一人の子供たち、そしてその背景となる家庭を支えていこうということを本当に一人一人丁寧に取り組んでくれています。

先日、その会議の中でとても気になる発言がありました。今年の小学校1年生が、学校中の様子を巡回して見ていると、今までの小学校1年生よりも体力の維持ができないといいますが、体力がない、一言でいえば体力がないということだと思いますが、体力というのはスポーツをするいわゆる体力ではなくて、例えば机に座っていていろんなことを書いたりだとか、同じ姿勢でいるとかということもすぐ疲れてしまってその作業が続かないというような現象が共通して見られるような気がするとおっしゃっていました。具体的には発達障害情報支援センターの宮内先生、この前、総合教育会議に来ていただいた先生ですが、おっしゃっていました。

それは多分、コロナ禍で、3歳くらいから一番その子供が発達する時期にいろいろな行動を制限されてきたということが影響しているかもしれないということで、もう一つの特徴としては、感情の表出がとても苦手さを持っている子供が多いということで、それはもしかするとマスク下で、子供のころ、大人の表情とか周りの人とのコミュニケーションを取るのがいろんな支障があったということが影響しているかもしれないというお話でした。とても気になる現象ですし、引き続き私たちは注意深く子供たちを見守っていかなくてはいけないということを感じました。

中学校での様子はどうでしょうか。また校長先生から様子を聞かせていただければと思います。

◎自己紹介

○教育長（伊佐治裕子君） それでは、本年度第1回目ということになりますので、事務局職員が代わっていますので、事務局職員の自己紹介をお願いしたいと思います。

- 事務局長（赤羽志穂） 本年度、事務局長を務めます松本市の教育次長の赤羽志穂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局次長（坂口俊樹） 事務局次長を務めます松本市教育委員会教育監兼学校支援室長の坂口俊樹でございます。よろしくお願いいたします。
- 鉢盛中学校長（中川満英） 鉢盛中学校校長の中川です。よろしくお願いいたします。
- 事務局次長（小西えみ） 事務局次長を務めます教育政策課の小西えみと申します。よろしくお願いいたします。
- 事務局次長（西澤 弘） 事務局次長を務めます学校教育課学校施設担当の西澤弘と申します。よろしくお願いいたします。
- 総括コーディネーター（幅 誠一郎） 松本市の部活動地域移行の総括コーディネーターを仰せつかっております幅誠一郎と申します。よろしくお願いいたします。
- 山形村教育委員会（藤澤洋史） 山形村教育委員会教育次長の藤沢洋史と申します。よろしくお願いいたします。
- 朝日村教育委員会（上條靖尚） 朝日村教育委員会教育次長の上條靖尚と申します。よろしくお願いいたします。
- 事務局次長補佐（伏見宏美） 次長補佐を務めます教育政策課、伏見と申します。よろしくお願いいたします。
- 事務局次長補佐（降旗 基） 事務局次長補佐を務めます教育政策課の降旗基と申します。よろしくお願いいたします。
- 事務局次長補佐（牧垣孝一） 同じく次長補佐、学校教育課の牧垣孝一と申します。よろしくお願いいたします。
- 事務局主事（三浦佑太） 事務局主事を務めます松本市教育委員会学校教育課の三浦と申します。よろしくお願いいたします。
- 教育長（伊佐治裕子） ありがとうございます。
それでは、会議に入っていきたいと思います。

◎会議録署名委員の指名

- 教育長（伊佐治裕子） まず、会議録署名委員議員です。本日は百瀬委員、それから、中村委員にお願いいたします。

◎議事進行

- 教育長（伊佐治裕子） 本日は議案が2件、報告が5件、計7件となります。

◎議案第1号 県教育委員会と松本市・山形村・朝日村中学校組合教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の取り交わしについて

○教育長（伊佐治裕子） それでは、資料をお開きいただきまして、初めに、議案第1号 県教育委員会と松本市・山形村・朝日村中学校組合教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の取り交わしについて。

それでは、事務局、説明をお願いします。

説明は着席のままでお願いします。

○事務局次長（小西えみ） それでは、資料1ページをお願いいたします。

1の趣旨をご覧ください。

長野県教育委員会と当中学校組合教育委員会が教職員の任免、その他進退等に関して了解事項を交わすことについてご審議をお願いするものでございます。

これに関わっての了解事項の覚書は、おめくりいただきまして3ページの別紙1、4ページ、5ページの別紙2となります。

別紙1の了解事項をご覧ください。

（1）と（3）校長、教頭の任免、その他の進退については、長野県教育委員会と当組合教育委員会とが十分連絡の上、事務処理を進めるものであります。

なお、ここには市町村教育委員会というようになっておりますけれども、組合教育委員会のことを県教育委員会に確認いたしましたので、よろしくお願いいたします。

（2）の副校長については、該当いたしません。

また、（4）教職員の任免その他の進退については、校長の意見を尊重することとなっております。

（5）の教員の新規採用について、県教育委員会教育長が採用候補者として推薦することになってございます。

2の令和7年度教職員人事異動の基本方針については、県教育委員会は、市町村教育委員会の意見を尊重して異動の基本方針を確立するものとなっております。

3では、1及び2の取扱いについては、別紙覚書によって適正に行うこととしています。

別紙覚書は、4ページ、5ページの別紙2をご覧ください。

1の教職員の人事については、（1）から（4）が、先ほどの了解事項と同じであります。が、（1）から（3）までの片仮名のイは、いずれにおきましても内申書を提出するということになっております。

また、（4）のウは、校長は立案に当たっては当教育委員会と十分に連携を図るものとするということになっております。

2の連絡の方法については、県教育委員会は、常時市町村教育委員会と連絡を取り合うことになっております。それに関わりましては、担当の主幹指導主事が学校訪問等を行うということでもあります。また、教育長の対応等には担当主幹指導主事は努めて参加し、連絡を図ることとなっております。

1ページにお戻りください。

3の実施期間は、当教育委員会の議決の日から来年の5月31日までの間です。

4の関連法根拠は、2ページにお示ししてございますのでご覧いただければと思います。

説明は以上です。

○教育長（伊佐治裕子） ありがとうございます。

それでは、質疑、意見のある方のご発言をお願いしたいと思います。

来年度、この地教行法に基づいて取り交わすということですが、よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○教育長（伊佐治裕子） それでは、質疑、意見がないようでありますので、これについては原案どおり可決することにご異議ないでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○教育長（伊佐治裕子） それでは、議案第1号は原案どおり可決すべきものと決しました。

◎議案第2号 鉢盛中学校における部活動の地域移行について

○教育長（伊佐治裕子） それでは、続きまして、議案第2、7ページになります。

鉢盛中学校における部活動の地域移行について、事務局の説明をお願いします。

○事務局次長（小西えみ） 資料7ページをお願いいたします。

1の趣旨でございますが、中学校部活動の地域移行に向けた松本市・山形村・朝日村中学校組合の対応方針について、協議をお願いするものでございます。

2の経過でございますが、昨年10月の教育委員協議会において協議をいたしましたが、まずは松本市の取組の説明会を開催し、周知を図ることとし、11月の定例会協議後に説明会を開催させていただきました。その後、市村の事務局で集りまして、3回程度、関係者会議を開催いたしました。3回目では中川校長先生にも参加してご意見をいただいたところです。

4月には学校説明会も実施させていただいております。

3の地域移行の方向性でございますが、令和6年2月に松本市が作成した松本市部活動地域移行推進計画に準じて、令和7年度末までに休日部活動を、令和8年度には平日部活動を段階的に移行することを目指して取り組んでいきたいと考えております。

8ページをお願いいたします。

（6）は、推進計画に盛り込まれている内容となっておりますが、生徒のやりたい活動に取り組める環境の整備を進めること、多くの保護者が心配としているハラスメント行為根絶のための研修、また、経済的な助成、トラブルや事故への対応、教師の負担を軽減し、学校改革に集中できる環境整備を進めていきますという内容が書かれています。

4の鉢盛中学校における部活動の加入状況をお示ししてございます。令和5年度、令和6年度の加入状況を下の表、令和6年度、5年度ということで分けてお示ししてございますが、全体的に見て令和6年度は令和5年度よりも9ポイント加入率が下がっています。1年生の加入率につきましては22ポイント下がった状況にあります。特に野球、サッカーの減少が顕

著で、野球については昨年度から合同部活動を開始いたしましたけれども、そちらを選択せずに、恐らくリトルシニアへ移行したことやサッカーについても民間のサッカークラブが盛んでございますので、そちらへ流れていったことが考えられるのではないかと考えております。

9ページをお願いいたします。

5の今後の進め方でございますけれども、(1)として、1・2年生を合わせて生徒数が少ない種目につきましては、一定の基準を設けまして部活動とは異なる形での活動への移行を模索していきます。また、基準を超えている部活動についても平日の活動日数を減らすなど、移行に向けての準備を整えていきたいと考えています。

(2)として、地域の既存クラブに対して受皿となることを働きかけたり、受入れ可能となった種目から先行して地域移行を実施していきます。

(3)としては、鉢盛中学校は学区が広いために保護者の負担を考慮しまして身近な場所での活動が望めます。地元での活動を促進するため、調整役となる総括コーディネーターを独自に配置し、鉢盛中学校を会場としたクラブの運営支援等を実施できる環境を整備していきたいと考えております。

6の鉢盛中学校の目指す姿ですが、次のページをご覧ください。

横になりますけれども、横にさせていただいて、こちらはイメージ図になります。

まず、調整機関として事務局を置きまして、総括コーディネーターを配置したいと思えます。実施団体としては、鉢盛中学校を拠点としたクラブ、これは仮称ですが、鉢中クラブとしてありますけれども、それと民間主体のクラブが想定されます。

特に中学校を拠点とするクラブについては、現在の部活動を地域クラブ化するもので、なかなかスムーズな地域移行が難しいのではないかと思います。外部指導者や兼職兼業の教職員が指導者になることを想定しております。そうすると参加費の徴収とか運営に関するノウハウがございませんので、相談等の支援が必要となるため、そこでコーディネーターに担っていただくというものです。

民間クラブは、既に運営はそれぞれで行っているところが多いと思いますので、運営はしていただきまして、ただ、コーディネーターは活動の状況把握は全体を総括的に調整していただくイメージとなっております。

また、左にございます「人材紹介」という四角がございますけれども、そちらは市町村で管理していくのがいいかと今のところ思っておりますけれども、指導者の掘り起こしをしておいて一覧等にまとめておきまして、コーディネーターからの指導者募集情報をもらった段階で各クラブへ人材を紹介するようなイメージとなっております。

続きまして、11ページですけれども、こちらは令和6年度の支援策となっております。

白い項目ですが、こちらはマネジメント業務委託や総括コーディネーターの配置などは現在松本市独自で実施予定となっているものでございます。色のついた創設支援金や参加者へ

の補助金などは鉢盛でも独自に実施するものとなっています。今年度は、松本市独自で実施予定のものについては、鉢盛組合を含めて実施していきたいと考えています。

9 ページにお戻りください。

8の今後の予定ですけれども、次期開催の議会本会議終了後の委員協議会で協議したいと思っております。

また、(2)として、鉢盛中学校組合として、分担金を負担としていますが、今年度については当初予算の未計上のため補正が必要となってまいります。令和7年度については鉢盛の当初予算に計上する予定であります。

今年度の分担金についてでございますが、どのようなやり方がよいか、ちょっと事務局のほうでもこれから調整していきたいと考えています。

参考ですが、本日机上に松本市で作成した計画、その他周知チラシを置かせていただいておりますので、参考にご覧いただければと思っております。

簡単ですが、説明は以上です。

○教育長（伊佐治裕子） ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見、どちらからでも結構ですので、出していただきたいと思えます。

幅先生、何か補足があったら、お願いいたします。

○総括コーディネーター（幅 誠一郎） 私は松本と今進めているわけですが、実際のところは現在松本市はクラブに多数参加して、また、学校、そこへ通う手間がかからないように、また問題となるのは、保護者のこれからはスポーツを続ければお金がかかっていく、そういうことを考えて、理解を求めています。

それから、指導者不足に関わっては、先生方にも部活をやりたいという方がいらっしゃいますので兼職兼業も考えております。指導員の中でまたそういうクラブを立ち上げとなると、やはり先生方の協力も必要ではないかと思えます。

以上です。

○教育長（伊佐治裕子） 校長先生、何か、現状も含めてございますか。

○鉢盛中学校長（中川満英） 学校としては、今とにかく生徒数の減と、部活動に入っている生徒の減少の状況があり、今後を目指したときに学校の部活動の存続をどういうふうと考えていくかというところを一番悩んでいるところであります。

というのは、どうしても来年度の職員の人事とか、職員数とか、そういうことに絡んでくるので、そういう面でやはりちょうど地域移行のこういうタイミングで、地域移行のデザインがどういうふうな形になっていくかというところが非常に大きなことかなというふうに感じております。

以上であります。

○教育長（伊佐治裕子） ご質問、いかがでしょうか。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） すみません、朝日村の百瀬ですが、よろしくお願いします。

今お話があったようにこれから中学生が部活とかスポーツをやるにはお金がかかるという時代に入ってくる。非常に保護者とか、あるいは学生たちにとっては不安が大きい状況が目の前にあるというようなことを思うんですけれども、やはりそのところで、気持ちよく子供たちが伸び伸びとそういった活動ができるような環境というか、そういったものをどうつくってやれるかというところが私は一番ポイントかなというふうに思います。

まず、ちょっと質問なんですが、部活動の加入状況が今年9ポイント下がっているということでもありますけれども、これはいわゆる部活動に入らない子供たちが増えているということになると思うんですが、これは鉢盛中学校だけの傾向なのか、松本市内、同じような状況がやはり見られるのか、そこら辺はどういう状況なのでしょう。

○教育長（伊佐治裕子） 把握していらっしゃいますか。

○総括コーディネーター（幅 誠一郎） 鉢盛中学校は独自1校だけなので数字が分かっていますが、ほかの学校についてはまだ挙がってきていないので、ただ、同じ傾向ではないかなという気がします。これほど顕著に低くなってないかもしれませんが、1年生の部活加入率は……、数字はちょっと分かりません。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） その理由というのがどういうところにあるか、野球に入らなかったら、リトルリーグ、シニアのほうへ行きますというようなことで、明確にそういう方向があれば問題は何もないのですけれども、ただ、ちょっとよく分からないから入りませんというような状況があるのか。その理由の背景を、子供たちの意識というのはどういうところにあるのかということをやっと懸念はするところでもあります。それが一つ。

もう一ついいですか。3の（3）ですね、指導者資格の取得を促すということでもあります。松本市が行っていくということだと思いますけれども、指導者の資格を出すときに一応認定するという形をとると思われるんですが、例えば指導者の行き過ぎた指導とか、そういった状況のときの罰則規定とか、そういうものがあるのでしょうか。

○事務局次長（小西えみ） 今のところ、罰則とか、そこまでは定めておりません。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） とりあえずはお願いをするという。

○事務局次長（小西えみ） これから規約等もつくる段階です。

○教育長（伊佐治裕子） それについて何か、校長先生、ございますか。

○鉢盛中学校長（中川満英） そうですね、今小西課長から話があったとおり、これから規約等の考えをつくっていくということになろうかと思いますが、いろいろな指導者の質であるとか、不安要素、保護者の方はずっとあろうかと思いますが、松本市もそうですけれども、研修制度をきちんと整えるとか、採用に当たってのどういう採用の仕方をしていくかというようなところに加えて、指導者資格というようなものが必要になってくるのではないかなというふうに思っています。

○総括コーディネーター（幅 誠一郎） スポーツ事業推進課で資格を推奨して、お金がかかりますので、補助を出すという制度になっています。

- 教育長職務代理者（百瀬司郎） 推奨するということは、この資格がなくても指導ができる。
- 総括コーディネーター（幅 誠一郎） 部活動の性格、これだけのものが出来上がっていくと、うちはどこそこの大会に出場するということになれば、こういうのを楽しみましょうというクラブになりますので、全部について指導者資格が必要ない。大会やベンチに入るときにコーチが必要とかいろいろ条件がつく場合があります。
- 教育長職務代理者（百瀬司郎） 分かりました。とりあえず。
- 教育長（伊佐治裕子） ほかにはいかがでしょうか。
- 教育委員（根橋範男） すみません、お願いします。現在の部活動指導員の配置は今後はどうなふうになっていくとお考えになっているのでしょうか。
- 教育長（伊佐治裕子） 校長先生。
- 鉢盛中学校長（中川満英） これからですか。
- 教育委員（根橋範男） はい。
- 鉢盛中学校長（中川満英） とりあえず今年はここにあるように指導員が4名で、松大生が2人来てやってくれていますけれども、来年度以降は年齢のことだとか、学生さんは今3年生が来てくれていますけれども、来年は4年生になるのでやはり就職のことがあるので、ちょっとどうなるか分からないというところですけども、あとはほかにも予算の関係とも絡んでくると思いますが。
- 教育委員（根橋範男） あと来年の2月の組合議会で提案を予定されている6月の補正なんですけれども、どんな項目で補正の分担金の追加が発生して、およそなんですけれども、どの程度の額が必要になるかというのは今お分かりになりますでしょうか。
- 事務局次長（小西えみ） すみません、正確には示せませんが、今年度の分担金としては11ページを見ていただきまして、まずマネジメント業務委託として6月補正で考えているのですが、こちらは本年度につきましては鉢盛を加えるということで、学校数で割るとか、そのような感じになるかと思います。

それと4の総括コーディネーターの、鉢盛は来年以降ということになりますので、今年度は幅先生に担っていただくということで、こちら学校数で割るような分担金を考えています。

指導者研修もそうなるんじゃないかな、スポーツ事業推進課のほうもやっていますので、私のほうで今明確に判断できないのですけども、検討協議会は鉢盛の中のことで、校長会長ということで出席していただくことになるかと思いますが、こちらは分担金がなくてもいいのかなと思っています。

例えばですね、2番のクラブ創設支援金なんですけれども、松本市でクラブが創設された場合に、一応支援金として10万円払うというようなことに松本市で考えているんですけども、そうすると例えば山形村で一つ立ち上がった場合、そういう場合はどうしたらいいのか、これから協議が必要なんですけども、もし山形村で立ち上がれば、山形村で10万円、朝日で立ち

上がれば、朝日で10万円というのが一番分かりやすいのかなと思っていますが、ちょっと今後協議が必要です。

あと生活困窮者への支援ということで、こちらは就学援助、お子さん対象なんですけれども、それは鉢盛のほうで管理していくということなので、鉢盛の予算のほうで大丈夫かなと思っています。

あと施設の減免とか予約についてはそれぞれ村のほうでご協力いただくのかなという、今のところイメージですけども、そんな感じでよろしいでしょうか。

○教育委員（根橋範男） はい、ありがとうございます。

○教育長（伊佐治裕子） ほかにいかがでしょうか。

○教育委員（中村八重美） 部活動の移行ということで、新しいことが始まるということで、受け止め方が様々であったりとか、今までと変わった形になるということで不安であったりとか思われる方も児童の中で多くいたりとか、保護者の方々も不安な方もいらっしゃるのではないかなと思うところです。

私は、中学2年生の孫が2人、名古屋一宮と埼玉の浦和市にいますが、名古屋一宮の中学は本当にもう部活動が移行されつつ、学校での活動の帰りも5時なら5時とかと、部活をやっても帰りが早かったりとか、それも週に2回とか3回とかで、もう一組の和光市にいるのは、本当に昔のような感じの部活動を今しているのですが、徐々に変わってくるのだな、その移行の中でどんなふうに鉢盛中学の子たちが、少し説明もしてくださったということを知ったのですが、もう少しどのようなことを児童が、生徒さんが感じているのか、保護者からどんなご意見が出ているのか、分かる範囲で結構ですが、校長先生のほうからお話をいただけますか。

○鉢盛中学校長（中川満英） 今年の4月に部活動、スポーツ文化運営委員会でも幅先生や市教委の指導主事に説明していただいたり、あとPTA総会のところでも私のほうから説明させていただきましたけれども、私の話した内容はとにかく8年度には休日の部活動はなくなるということ、あとそれ以降、平日のところは段階的に地域クラブに変わっていくということ、今年から、それ以外のことは予想というか、私個人的な考えになるといろいろなことが捉えられてはいけないので、その事実だけをお伝えしました。

そういう中で、私の聞こえているところでは、やはりさっきデザインというお話をしましたけれども、なくなったときに地域クラブ、地域移行というものがどういう建てつけになっているものなのかがあまりイメージできないというのが保護者も、子供たちも、もう一つ言えば学校職員もというところになってくると思います。

なので、不安もありつつも、1年生の保護者の方も子供たちもなくなるんだなということが分かっていて、1年生の子たちが3年になるときは休日がほとんどないわけなので、ということは聞いているけれども、では、それがどういうものなのかというのはあまりイメージできなくてというところかなという気がします。

先ほどのサッカーのほうは、話をサッカー部の本部に、サッカー部の本部に指導者が2人、結構専門家がいて、要はたくさん入っていい活動をしていますけれども、今年は急に1人だけ入ってきました。あとは聞いていると、山形のほうのスポーツクラブのサッカークラブは非常にたくさん入って、小中やっていましたけれども、みんなそこがなくなるんだろうなという話で、地域のほうの社会体育のほうにみんな行ったということを聞いています。そんなところです。

○教育長（伊佐治裕子） よろしいですか。

○教育委員（中村八重美） 新しいことが始まったり変わったりしてくるので、ぜひ生徒や保護者に丁寧な説明をしていただきたいという要望が一つと、それから、これからスポーツを今までとは違って、本当にしっかりスポーツをやりたいかったら、塾と同じようにお金がかかるし、捉えも変わってくるのだというふうな私は感を持っているのですが、その中でそれぞれ指導者が地域の皆さんにしっかり根づいていないので、みんなが模索しながらも状況把握の話ができるだけ保護者や生徒さんに内容を詳しく受け止められるような説明をしていただけたらと思いますので、お願いします。

○教育長（伊佐治裕子） 先ほど経過のところにあつたのですが、昨年11月に議員さんたちに説明をして、2月定例会で鉢盛の今後の方向性の説明がちょっと不十分ではないかですとか、そういった意見が出たり、それから、関係者会議を3回ほどやっていたいると思うんですが、特にこの3回目の5月に行った中では、理想はその地域で総合型スポーツクラブのような形ができれば、というようなことが出されています。

その意見を基にして今回議案としてお諮りしているのは、3番の地域移行、鉢盛についても松本と同じスケジュールで7年度末に休日部活動、それから、8年度末に平日の段階的に移行するということでしょうかということが一番の趣旨になっているかと思います。

そしてそれを進めていく上で、松本の場合は既に民間の方で受け入れてくださるところを、地域クラブのモデルケースとして補助金を支出してどんどん立ち上がってきているんですけれども、鉢盛にそれと同じような形というのは、ちょっと狭い地域の中で、通うのが大変だとか、松本のクラブに行ってくださいとかということも困難な面があるでしょうし、だとすれば、ここにあるような一番身近なこととしては、この鉢中クラブと書いてある、今部活動指導員が入ってくださっている実際クラブがあるんですけれども、そのクラブを、指導者は外部の人が入ってくださっている形をそのままクラブに移行していったらどうかということで、校長先生ともお話をしました。今指導に入ってくださっている方は年齢的にも、例えば70歳くらいの方もいらっしゃるということで、指導ができて、恐らくクラブを運営していく、ここにありますが、月謝をいただいて、そして保険に入ったり、それから日程調整をしたりとか、会場を押さえたりとか、そういう事務的なマネジメントまでということとはとてもハードルが高いのではないかと思います。ですので、マネジメントを回していくというのを、その上にある地域クラブ連絡事務局というものを鉢盛については設けて、

そこに鉢盛で雇用をした総括コーディネーターを置いて、その人が指導者の裏方をするという、そういうイメージだったら、移行がしやすいのではないかという、そういうイメージを書いていると思います。

それから、もう1点は予算のことなのですが、11ページの先ほど根橋委員からもご質問がありましたけれども、既に例えば1番とか4番とか、7番、9番というのは松本市の予算で、実はほとんどが6月補正予算でこれで今度の議会に諮る内容になっています。例えば1番なんかは6月補正で諮ることになっています。国の補助を取り込んで松本市も補助を導入して行っていくということになるので、この中に移行のスケジュールを考えれば、鉢盛も一緒になってやっていくというのがいいんじゃないか。ただ、松本市の予算を伴っていることなので、鉢盛からの分担金、これは1市2村で負担をする予算の中から分担金を後で精算ということで、本年度も補正予算をいただくという方式でできないかという、そういう内容になっているということになります。

この議案の中には重要な点が幾つかあるものですから、その点についてぜひ意見を出していただければと思います。

村山委員、どうでしょうか。

○教育委員（村山晴美） よろしくをお願いします。

今教育長がおっしゃられたように令和7年に休日、令和8年までのところで平日の運営を地域移行といった、大筋がそれに向けていきましょうということなので、ではそこに向けて渦中のまま終わってしまう中学生もいれば、それが初年度になるお子さんたちも出てくるという中で、兄弟関係でどっちにもまたがるという方も出てくれば、自分たちはそういったことが直接的に影響なく終わってしまうという家庭も出て、保護者も出てくるという中での動きのことで、すごく難しさを抱えているんだということを理解というか、理解しているというか、感じているというところにあります。

やはりこの活動をしていく中で見失ってはいけないのは、そもそも何が目的で、どういう背景があって、これをどういうゴールではないですけれども、どういう姿にしたいためやっていくんだよといったところは見失ってはいけないところなのかなというふうに思います。

以前、松本市で説明に使っていただいた資料をちょっと私見直してみたんですけど、子どもの「やってみたい！」を応援するプロジェクトといったところがあるということがまずありますし、その背景としては働き方が変わってきているよという、その直接的には子供と教員の皆さんといったところで、立場が全然違う人たちのことを並行して実現していきましようといったことがあるのと、そこを意識しながら進めていけたら、進めていただけたらというふうに思っています。それがまず1点、感じたこととしてあります。

頂いた今日の資料の中で、8ページにあります別表の今年度の部活動の、これは鉢盛で今現存している部活動で、そこに指導員、アスリートというふうにあります。実際ここに教職員の先生方が1ないし複数名、顧問として、指導者として必ずついていたというとい

う状況なのか、もう先生は全然タッチしていないところがあるのかといったところも分かればありがたかったかなというふうに思うんですけども、ここが令和7年までには先生たちは（１）とかという感じになっていくイメージなんですか。直接丸々ご自身がやっていくということも、兼職兼業の教職員の方という形が出てくるように想定されるとあったので、そこら辺がどんな感じに動いていく予想があるのかなといった、やりたい先生もいらっしゃる、全然未経験の部活を見ることはやはり難しいよねと考えていらっしゃる先生もいる、少し分かれていくのかなというふうに思いましたというか、そこがちょっと学校のほうでも見据えていただくという、教職員の先生の配置と関係してくるのかなと思います。

それに関連して、今鉢盛でこれだけあるという中で、今後のイメージの中では実施団体で10ページのところに鉢盛中学校が主体となっていく、地域が主体となっていくというような2つに大きく想定されることがありますけれども、この中で、今はあるんだけど、例えば教職員の、現在の教職員となっちゃうと思うんですけども、こういうのが鉢盛としてあったら、地域性とか、1市2村の地域性を持ってこういった活動が鉢盛を母体としてあったらいいんじゃないかという新規のものが出てきてもいいんじゃないかというふうな考え方を持つのはNGなのか、現存をベースとして、増えることはない、減ることはあっても増えることはないという考えの下でいいのかとか、その辺がちょっと感じました。現存の今の鉢盛の部活動の多分増えたものもあれば、減ったものもあるんじゃないかというふうに思っている、その辺、どんな形を今後持たれていくのかということも、持っていただけるといいのかなとちょっと思いました。

自分の上の子は鉢盛をこの春卒業したのですが、地域性のあるスポーツだったんですけども、今松本市、山形、朝日では衰退の一途をたどっているスポーツをやっている、部活ではなく、地域クラブというか、民間クラブに入ってずっと活動していたということがあるので、精神的にも、時間的にも、経済的にも、親子でタッグを組まないで越えていかれないという経験があるので、そういった位置に全てのものが入っていくことは無理だと思う、難しいと思うので、その辺も地域性、地域との関わりの中で、うまくまとめられなくて申し訳ないのですが、その辺も気になったところとしてあります。

○教育長（伊佐治裕子） その辺はどうでしょうか。

○総括コーディネーター（幅 誠一郎） 今、一番難しいところに指導者の問題が入っておりますので、その地域柄のよさを生かして、もし、ほかの地域で和太鼓をやっている、それなりにはあるんですが、ただ、我々が目指すのはそう短期間でなくて、持続可能で、できたらそのまま続けていきたいとなると、指導者一人だけではなくて、いろんな方が運営できるようなクラブが立ち上がっていけば、またそれはそれでいいんじゃないかなと思っております。

○教育委員（村山晴美） ありがとうございます。

10ページの絵の中で想定されていること、中学生までって民間はなっているんですけども、実際中学生までではなくて、高校生とか、果ては社会人とかを含めたようなクラブも実

在しているのかなと思うので、その辺も少し、今おっしゃったように持続可能となると中学生がはい、終わりというものではない活動なのかなという、また示していただければいいのかなというふうに思います。

○鉢盛中学校長（中川満英） よろしいですか。お願いします。ありがとうございました。

指導員はというか、各部の指導員がついているところの顧問は、その部に学生時代少し経験したという人もいれば、全く経験していない人もいるというところですよ。また、部活動指導員はやはりそれぞれ皆さん別のお仕事とかやっていたらしゃるので、週1日、または2日くらい来ていただければ、もしかしたら、そこまでも厳しいような状況の方というところでやっているの。では学校の先生は何もと言うかもしれませんが、本当に協力しながら、来れるときにはお願いします、そうでないところは私はということでやっているというのが実情であります。

あと部活動というところはどうしても中学校、運動部に関しては中体連という大会との絡みがあるので、そういうところの絡みが非常に難しいなというように思いますし、吹奏楽とか合唱とかもコンクールとの絡みがあるというところも、それぞれ大会というものの関係性が非常に大きいかなというところも出てきております。そんなところであります。

○教育長（伊佐治裕子） いかがでしょうか。

これは議案となっていて、教育委員会はこれでいいと思いますけれども、このまま今度の臨時会に議案という形で出していったいいものかどうか。ちょっとその辺、今日は幾つかあるので、移行のスケジュールということ、それとイメージは補足資料の添付のところに、主に11ページにある松本市が本年度始めようとするところに結局スケジュールを合わせるんだったら、これと一緒に今年度は乗かって負担金を払う、補正することについて協議をするということです。財政的な負担が生ずるということについて事前に協議するという、そういう意味合いで。

○事務局次長（小西えみ） さっき申し上げたように今どうやってやっていくかがはっきり、申し訳ない、今この場ではあいまいな感じなのですが、7月の議会までにはちゃんと整理していきたいということが職員の中では話しているんですけども。

○教育長（伊佐治裕子） 今日ここで議案として出てご意見を出してもらおうということは、先ほどの3番のところですね。3番の地域移行の方向性と……

○鉢盛中学校長（中川満英） よろしいですか。昨日も松本市のプロジェクトチームの会議に幅先生と一緒に出席させていただいて、各団体の方の中心になる方のご意見を聞いていて、やはり幅先生が言われたように、どこも一番言われたのは指導者が今の部活動の数、人数をそのまま地域が、学校職員は兼職兼業はあるとしても、受け入れるということが、指導者の数と指導団体のその数が現段階では絶対的に不足しているというところでいろんなご意見があります。

でも、松本市はこれから補助金も含めていろんなことをやっていく中でももしかしたら増え

ていく可能性もあって、だけれども、鉢盛の今の子供たちのこの地域性から、これを移行という言葉はどうか、そのまま移行と言って、子供たちが例えば4時半とか5時から活動できるようなことになっていったときにはなかなか難しいなというところがあって、村山さんが言われたようにスケートとか、またほかのところで、1回帰って、またそのままとかというところと、やはり1回送って云々ということはなかなか厳しいご家庭もあったときに、では鉢盛のあそこのところではどういうデザインをしてやっていくかといったときには、やはり9ページの(3)にあるような、もし調整役となるような総括コーディネーターみたいな方が配置いただいて、それを村山さんが言われたように鉢盛のよさというか、地域性も大事にしたようなこれからの活動というものがデザインできているならば、それはまた一つの形かなというように思ったりもするんですけれども、もしそういう方々が来て女子バスケット、男子バレーも地域クラブという形になれば、部活をなくするとか、募集を停止するとかいうことは全然必要なくて、一人でも入ってくればそのまま大事にまた頑張ってもらえばいいしというようになるんですけれども、そういうものがなくなるということになれば、もう今年のうちに来年度はもう募集を停止します。または今の1年生にもこれで終わりますということになってくるかと思うんですけれども、なので、私たちがこうした1年がとても大事だなというふうに思います。

○教育長（伊佐治裕子） 将来的な見通しもなければいけないので、一定程度方向性を決めていかないという、そういったご意見ですね。

○鉢盛中学校長（中川満英） はい。

○教育委員（中村八重美） いいですか、10ページに示していただいたイメージ図に併せて、9ページの5の今後の進め方といったことがこれ文字で書いていただいているけれども、このように図というか、タイムスケジュール、進捗が分かるような、例えばここに1・2年生合わせて生徒数が少ない種目については一定基準を設けてとありますけれども、これ、今後設けられるというふうに理解しているか、もう設けられているわけではなく、これからですか。であれば、例えば今1年が大事だという、おっしゃっていただいた先生の言葉をいただきますと、例えば9月までにそういった基準を設け、そこに対して来年度の募集はどうするとかということが進められるような、いつまでに何をやって、今年度末までにはどういったところまでをやっていきましょうというようなことがこのイメージ図と併せてあれば、より保護者の立場としてはこう進めていく、具体的な図案が分かるということというふうに思います。その後の受皿がどうなるかとか、実際もう閉じてしまうので、地域を想定して、自分の家の子供がやっている、何かやりたいと言っているスポーツや文化的活動はこうしていこうというふうに保護者も自分たちから動いて探そうとか、子供と考えようというところにつながるのかなと思います、今の話は。

教育長がおっしゃっていただいたように議会で決めていかなければいけない、議会に諮っていただくこととして予算のこと、予算面のこと、今後の進みぐあいのことというふうにポ

イントを大きく出していただく中でご説明いただくとより理解していただきやすいのかなというふうに思いました。

○教育長（伊佐治裕子） 議会に諮るときには協議会ですね、今教育委員会だから、議案として協議いただいているけれども、議会でやるときには協議会で諮ることになりますね。

○事務局次長（小西えみ） はい、協議会で。

○教育長（伊佐治裕子） いかがですか、そのスケジュール、今皆さんに見ていただいたスケジュールのことはよろしいですか。

では、スケジュール、松本に準じて、7年度までに休日、8年度末までに段階的に平日。

○教育長職務代理人（百瀬司郎） 予算ですね。

○教育委員（中村八重美） だけど、松本市のをそのまま鉢盛中学が並行していかない部分もあるので、問題点をもうちょっとより具体的につくっていけば。

議会だから、もうちょっと具体的に、さっき小西さんがおっしゃったようにもうちょっと具体的に内容を詰めてくださるとおっしゃっていたんですが、もうちょっと内容が、どこの部分がまだ鉢盛としては松本市とそぐわない部分があるのか、問題点はここだとか、ここまですればできるとか、でも、もうちょっと具体的に資料というか、できますかね。

○事務局次長（小西えみ） 松本市も実際細かいものを具体的にというところまではいっていないで、鉢盛で問題になるのは予算のところで、どういう分担金にするかということだけでも、もっとより具体的に言えば。

○教育委員（中村八重美） どうしても必要なのは人件費なんですか、主は。例えば総括コーディネーターをお願いするとか。

○事務局次長（小西えみ） それは来年度予算に、コーディネーターについては今松本市の幅先生、総括コーディネーターに今年度から鉢盛も、そこに分担金を持っていくという。

○教育委員（中村八重美） 分担金を出してあげる。

○事務局次長（小西えみ） はい。

○教育長（伊佐治裕子） 例えばもう一つは、まだそれはいいと思うんですけども、10ページの総括コーディネーターを置いたときに、その人がどこで活動するかということについてはまたこの場で協議をして、事務局職員の方と含めて協議ということになるかと思います。できれば、例えば鉢盛の中学校の中に置くのか、それか、一番児童数の多い山形村の教育委員会の事務局の中に置いていただくのか、それとも鉢盛中学校は、朝日村の中学校に1人その人がいて調整するのか、いずれにせよ、松本市の事務局では一番遠くなってしまうので、それは今言ったこの3つの選択肢でお願いできればというふうに考えています。

その辺いかがでしょうか。

○教育委員（根橋範男） 方向性を決めておいたほうがいいと思いますけれども、ここに書いてあるとおり、いつを目指すか。全県状況を見ながらというふうになっていくんじゃないですか。休日の部活動を最初に移行させて、平日を次に地域移行していくという。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） いいですか。基本的には3番のここにあります休日部活動、それから、鉢盛には平日部活動を段階的に移行していく、この基本的な立場で方向性としてはいいと、松本市に準拠していくという形で鉢盛も、それはいいとして、ただ、鉢盛に置かれた独自の状況というのがあるので、そのところが子供たちにとってどんな影響を及ぼしていくのかというのがもうちょっと見えない。そこら辺のところが見えてきて、あ、これだったらみんな大丈夫だよなという安心感、そういう環境だという安心感は保護者や子供たちに見えるかというところがいまいまいちちょっと見えてこないなという感じはするんですね。

コーディネーターの方がいらっしゃるということはうんと大事なことで、これもとてもいいことだと思うんですが、コーディネーターが一人いたなら、みんなうまく回っているかということは言えるかどうかというのをちょっと今の段階では何とも言えないという、若干不安、見えない部分がまだ大きくていけないのですけれども、私たちは今日ここでは3番の部分を要するに認めることをするということが必要なんですか。

○教育委員（根橋範男） 協議して、次回、議会で協議が入っていましたので。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） 協議ね。

○教育委員（根橋範男） ええ。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） 教育委員会としては……

○教育委員（根橋範男） 方向だけは決めておかないといけない。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） 承認するということで。

○教育長（伊佐治裕子） 議案で出ていますので、承認する、しないということをここで決めていただかなければ。ただ、さっきのようにこの議案の中には、大きな方針と、なるべく学校を中心に活動ができるよう今の部活動指導員に担っていただけないマネジメントをコーディネーターが担ってやっていくというのが一番移行しやすいのではないかなというのがこれなんですね。そしてそれプラス、11ページの既に本年度、では本年度何もしなくていいかという本年度だってやっていかないと7年度にいきなり休日をやめるということではできないので、なので6年度、松本市で持たそうとしているものに乗っかって分担金を払っていただくという、その主に3点かと思うんですね、この議案の中に盛り込まれているのは。ということでいいですね。

○事務局次長（小西えみ） はい。

○教育委員（中村八重美） いいですか。あと10ページのイメージ図は松本市そのものの中学校の皆さんに示しているイメージ図と中学校名が鉢盛とか、地域移行が松本市だけになっているとかというように見えて、同じような造りですか。違うわけですか。

○総括コーディネーター（幅 誠一郎） これは鉢盛中学校だからこそというか、一番求められているニーズだと思いますので、松本市はもっと入り乱れて……

○教育委員（中村八重美） 入り乱れて。

○総括コーディネーター（幅 誠一郎） 立ち上がるとそこにいろいろな学校からやってくる

という、そういう感じなので。

○教育委員（中村八重美） この「市内の中学生」という、一番下の帯にあるところがもっと複雑という感じ、なので、先ほどちょっとあった鉢盛ならではの動きやすさを持っている課題というのが、例えばほか、ほかというか、松本市で中学校を対象に考えている活動と比較すると、ちょっとここへ載せてというわけではないのですが、例えば比較すると、鉢盛独自だと、あ、ここは動きやすく委任しやすい部分なんだとか、鉢盛独自でちょっと考えなければいけない部分が実はあったんだねとかというような目が見えるのか、ちょっと思っただけですけども。

○事務局次長（小西えみ） 鉢盛の、学区が広域なので、中学校を拠点としたものと民間クラブを選ぶ人とは、比較図なんですけど、松本市だとより広域になるということなので、どちらかというより通いにくいというか、選びにくいというか、鉢盛だからこそ今この状態でできている。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） 鉢中クラブというのが鉢盛独自の計画だということですね。

○事務局次長（小西えみ） そうです。

○教育委員長職務代理者（百瀬司郎） ということになる。

○事務局次長（小西えみ） そうですね。

○教育長（伊佐治裕子） 松本の場合は一番違うのは、これは実施団体というのがあって、鉢盛中学校を会場としてやるところは鉢中クラブというくくりになっているじゃないですか。そこで先ほどお話をしたように指導だけだったらできるけれども、クラブ自体をマネジメントしていけないという方が今のところは多いので、その部分を総括コーディネーターという鉢盛専用の人を置いて、そのマネジメントを黒子としてやっていくという人を一括して置けば、今の部活動でやっているものを割とスムーズに移行ができるのではないかなというのがこの鉢盛の図なんですよ。

松本の場合は、このクラブとありますよね。クラブとあって、例えばバレーとかバスケットという、それが一つずつ今度はクラブになって、そのクラブの中にこのコーディネートといいますか、月謝をもらったりだとか、クラブを運営していく人を個々のクラブの中に置く。クラブがいっぱいあって、その上で例えば課題が出てきたときにそれをトータルで調整していく役はスポーツ協会にやってもらうのがいいかもしれないねとか、文化は芸術文化振興財団にやってもらうのがいいかもしれないねということは何となく、ふわっと考えていますけれども、松本もそんなにクリアなイメージとか道筋ができているわけではないんですよ。だから鉢盛でそういうものを示してほしいというご要望が保護者からあっても、それは私たちもできませんということで、だから今のところは鉢盛にふさわしい形としては松本と比べれば、この10ページの姿が一番いいんじゃないかという、最大限これは事務局が工夫して書いてもらった絵なんです。

ただ、総括コーディネーターがいる場所というのは、先ほどお話をしましたように、もしこれを置くとすれば、それぞれの山形か、朝日の事務局か、あるいは中学校の中にいるという形でお願いできないかなというふうに思っています。

○鉢盛中学校長（中川満英） 本校で一番地域クラブが多分スムーズにいったと思います。最初に建てつけさえできていれば進んでいくということは、朝日のソフトテニスクラブでコーチの方々ともお話をしましたけれども、よくその話を持ってきてくれましたということではありましたけれども、要はやりたいんだけれども、みんな結構そうなんですよ。でも自分からなかなか声をかけて月謝を取りますよとか、どんどん来ませんかとかとやるんじゃなくて、特に朝日のソフトテニスクラブは本当にボランティアでやっていらっしゃる方々なので、来る人はウエルカムだけれども、ただ、地域移行という、俺たちはそんなためにという感じで、来たい人たちがやっているんだ。ただこれからのことを考えていくとやはりそれは必要だと思っているということで、上條さんとか、ほかの方とも話したんですけども、となると、その上に誰か鉢中クラブだとか、コーディネーターがいらっしゃると、その中の規約みたいなことをつくっていただくと非常に、ではテニス、バスケか分かりません、バレーかどうか分かりませんけれども、という形にはなりやすいかなということを少し思ったりしました。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） 今これを見て、鉢中クラブというやり方は割といいかなという感じを受けるんですよ。全部外にばんと放り投げられるのではなくて、やはり鉢中クラブという一つの今までの形を継承したような形態があるという、子供たちも安心できるんじゃないかなという感じはするんですが、そういった意味で鉢盛らしさというか、独自性を持った組織と、それから、コーディネーターが手を組んで一つの組織をつくっていくという、ある程度見えてくるかなという感じはしているんですけども。

○教育長（伊佐治裕子） 長野県内でも小さい村だとか町とかでこういう総合スポーツクラブという箱をつくって、そこに事務局職員がいるところもあれば、委託料を払ってやっているところもあるけれども、狭い面積のところはこれと似たような形でやっていると思うんですよ。

○鉢盛中学校長（中川満英） よろしいですか。ただ、例えばサッカー部の子たちはみんな、山形でやっている子たちもみんな外へ行ったわけですよ。でも別に問題なくて、それなりのところでやっているの、そういう世界もあるし、やったことがない形なので、もしかしたら、部活もなし、あとは皆さん地域ですよと言った場合に、ではそれはもし早くに示せば、保護者も子供と考えて、では松本のあそこにはああいうクラブがあるよとか、塩尻のほうにも結構バスケットとか、ユメックスが結構やっていますので、そういうところへ行こうかというようになるかもしれないし、ただ、みんな松本か塩尻のほうへ行って、そういう社会体育の活動をやるというふうになることは間違いないかなというふうに思います。

○教育長（伊佐治裕子） そういうふうになるかもしれないけれども、4月25日、説明会のと

きに松本の地域クラブに通うことは経済的に負担だと、さっき村山さんの話もあるんですけども、通うとなると保護者が送迎するとか、公共交通機関で行くとか、それなりにクラブの会費プラスいろいろかかってくるわけで、そういうところに配慮するには、中学校を会場にしていけば応えていくことができるんじゃないか。だから部活ではないけれども、今までの部活の延長みたいな形で、主体は民間だけれども、入るところを残しておくというのがこの図ですね。

ここの絵にはない、ここにほかにもいっぱい松本とか塩尻の民間のクラブがあって、そこを選ぶのは全然自由ですよということで、今も松本も配っていると思うんですけども、市内に子供たちが選べるクラブがこれだけありますよと一覧表を配っていますよね、学校を通じて。だからそういうものを見て子供たちがやりたいことを選択できるようにしていく。

それと11ページの参加補助金、これは一定程度の収入の世帯のお子さんにはそれなりの補助をしていくということを考える。でもこれはもし鉢盛でやるとしたら来年度からなんですね。

○事務局主事（三浦佑太） これを行うということであれば、実際にかかる対象世帯が何世帯あるとか、そういうところの確認をした上で、補正対応が必要であれば、2月になるのか、それは分かりませんが、そこで補正をさせていただくということもこちらとしては考えております。

○鉢盛中学校長（中川満英） あともう一つ、よろしいですか。もしコーディネーターというものを配置していただいて、その方を中心にやっていただけるということになったら、学校だとどうしても学校の状況か、学校の状況を分かってもらわなければ困るんですけども、一番今困るのは多分、先ほどの繰り返しになりますけれども、幅コーディネーターが言われたように指導者とそういう団体をどういう感じで、指導者ですね、なってきたときには、やはり地域のほうにいらっしゃっているいろいろ連携される方のほうがどんどん進めやすいかなというふうには思います。

さらに希望的なことで言いますと、もしそういう方が入ってうまく流れていったらば、令和8年度に平日でなくて、子供たちの立場になると、例えば日曜日はあのコーチで、平日はこの先生に教わるというよりは、もし地域のほうが、そうやって鉢中クラブがうまくいくのならば、もう土曜日も日曜日も、平日もその中に、さらにそこに職員が兼職兼業で行きたい人が行けば、指導者はずっと平日も休日も一緒になるので、子供たちとしては非常にやりやすいかなということです。あの日はそのコーチ、この日はこの先生は、やはり全体の配置にはとてもいいし、やはりそれは大事だと思いますけれども、もしコーディネーターという制度がうまくいくといったならば、またそれを考えていただけたらと思います。

○教育長（伊佐治裕子） ということで、ちょっと前に進めなくなっちゃたんですが、いかがでしょうか。

○教育委員（村山晴美） おっしゃっていただいたように三本柱はこの今日頂いた内容で進め

ていただくということで私は方向性は異議なしという形で、7月に協議いただければいいのではないかと考えています。

松本市はなかなか複雑で難しいというなら、鉢盛をモデルにさせていただいた内容で、鉢中クラブ、地域クラブという形で2つの大きな中で、先ほど校長先生がおっしゃっていただいたように実際の運営をコーディネーターさんを挟んで、具体的なところにされていくかということをご説明していただければいいんじゃないかというふうに思いました。

あと先ほどからちょっとおっしゃっていただいている実際指導する方と、クラブというか、運営する方、事務方といいますか、そこが並行するの非常には難しいよとおっしゃっている方が多くいらっしゃるということだったのですが、実際に、どうしても、現時点だと運動系だと中体連、ほかの文化系でも各団体、上位団体といったところの大会に出るに当たっての事務手続、本当に複雑、煩雑化しているというふうに思っているのも、そこが鉢盛中学校として登録ができるというのと、何々クラブという形での登録でもできるというふうに去年から変わって、中学は、中体連なんか入ることがあると、余計、今は学校の先生にやっていただいているんですけれども、事務手続、非常に複雑というのは実感しているところがあるので、そこらあたり事務コーディネートしていただけるというところも補填というか、ないと多分うまく進まない。どこかで破綻してしまうクラブが出ちゃうのではないかなというふうには、鉢中クラブが破綻しちゃうのではないですけれども、そういったことが出てくるのかなと思うので、それもちょうと持ちながら進めていっていただけたらというか、いけたらなというふうに思います。

高体連はまだクラブという登録は一切ないので、高校でしか登録できないという、その違いも、中高の違いはあるので、中学まですごく地域でやってきたんだけれども、高校に行ったら、やはり高校の部活動がないと選手登録できないとかというようなことになりかねないので、その辺がすごく、ちょっと横にさらにあるのかなというのは含めていただけるとありがたいというふうに感じます。

○教育長（伊佐治裕子） いかがでしょうか。

○教育委員（根橋範男） 先ほど教育長さん言っていただいた3点、これでいいと思うんですけれども、6年度の支援策で金額が予算措置で入っているんですけれども、これって、次回の議会の協議会に出すときに金額は抜いておいたほうがいいんじゃないかなという気がするのですが、いかがですか。ここの例えば762万のうち、クラブマネジメント業務委託だけでとか、こういう額なんですけれども、議員さんのところへ金額を出すと、例えばまだ2月に補正を出るのでお願いしますという、では補正前にもう執行するのかというようなことを言われる議員さんがいるのではないかなというちょっと気がするんですけれども、そこはいかがかなというふうに。

○事務局次長（小西えみ） では金額は伏せて、この部分については分担金でとか、この部分については補正でとか、そういう言い方ですか。

○教育委員（根橋範男）　そうですね、金額はあまり示さないほうがいいのかなというふうに。

○教育長（伊佐治裕子）　このままは使えない、協議事項に出したときに。

　　どうですか、百瀬委員。

○教育長職務代理者（百瀬司郎）　大まかな方向性はこれで、方向性はこれでいいというふうに思いますし、イメージ図のところではやはり鉢中クラブというものが一つ形として、鉢中らしい鉢中クラブのやり方があるということを考えると、ある程度子供たちも乗りやすいかなというふうに思います。

　　ただ、どうしても気にかかるのは、やはり交通とか、保護者の経済的負担がどういうふうになるんだろうな、ここら辺がちょっとなかなか難しいところですが、これからだと思えますけれども、やはり子供たちの受皿が社会体育、あるいは鉢中クラブでできますよというところで明確になってくる、ある程度は十分できるなというふうに思います。原則、私はいいいと思います。

○教育長（伊佐治裕子）　ということで、では、おおむねの方向性はよろしいですか。

○教育委員（中村八重美）　総括のコーディネーターの方が必要だということはよく分かったので、松本市さんと比べた場合、鉢盛中学で、その地域で一人いてくだされば、より回っていきやすいのかなと思ったりもするのですが、課題がたくさん、まだ指導者の方も人材としてなかなか難しいところもあるのでというのと、それから、今ちょっと私はよく分からないんだけれども、大会へ出たりする部活動は、結構専門的にやっている子たちはそっちのほうへ移行する子もいるとしたら、今までとは部活の捉えが変わってくるということももし明確に説明していただけたら、そのほうがより具体的に分かるのかと思ってみたい、今までと同じようには対応が難しいのではないかなと、それと今の鉢盛中学校で対応している部活動がそのまま移行しても同じだということがないわけですよ。できない状況だからこのように議論したりしているので、そのこのところも分かるように伝えて、こんなふうに変わっていくんだということの説明をしていただければ、大体6年と7年度に向けての方向が理解できましたので、これでいいと思いますが、対応についての部分で、少し具体的にになるところは具体的に説明していただければいいかなと感じました。

○教育長（伊佐治裕子）　どの辺が具体的に。

○教育委員（中村八重美）　部活動が具体的に、保護者の方は大会に出たりとか、やはりそういうことを望んで、多くの生徒も望んでいることは感じられるのですか。

○教育委員（村山晴美）　学校の部活動は広く捉えている子供が多い、本当にやりたくて、がっちりやりたい子は部活動も一生懸命やるんですけども、他にも指導を受けに行っているというような子もいらっしゃると思います。学校の生活の延長上で上位学年をまたいだ活動の中で、クラスをまたいだ活動の中で楽しさを求めてやっているお子さんもいると思います。ただ、もしかしたら、全体を私も把握はしてないのですけれども、入っていただいている教職員の方が経験者、あるいは今もアスリートに近い形でやっているよという方だったり、本

当に吹奏楽をずっとやってきて、自分も熱意を持って指導しているという学校の部活はやはり結果もついてくるということは、指導もきっとそれなりに厳しかったり、団体としての向上を求めるという活動もあると思うので、違いはあると思うんですけども、地域の、今現在ある地域のクラブも広く楽しむ方から、がっちりやりましょうという方まで受け入れているよというところもあれば、もうがっちり大会で上位を目指すためにやりますよというクラブさんも多分あるんじゃないかと思うので、そこが分かるようなものになった、例えば先ほど松本市とかにもいっぱいクラブはありますよということを一覧として出してくださっているというお話だったんですけども、そのところがより分かるような形になっていけば、もう少し自分が選んでいく部活、あるいは地域クラブというものを選択する情報の一つになるのかなというふうに思います。ばらつきはあると思います。

○教育長（伊佐治裕子） 基本的には選択肢が多様になるということなんです。今までは中学の自分の学校にある部活動しかやれなかったものが、それが学校の部活動でなくなって、地域にあるいろんな多種多様なものを選んでいただいて、その代わり、今まで教員が無料で指導していたものというものが一定の負担がかかってきますよ、今まで無料だったんだからという、そこが一番端的に言ってしまえば、それだけだと思うんですよ。

○教育委員（中村八重美） その説明、すごくよく分かりますので、そんな感じのことも……

○教育長（伊佐治裕子） それはすみません、この前、議員協議会で説明をしたあの資料が全てなんです。議会で説明した資料のところにそのことが書いてあるので、でも皆さん、一度聞いても、確かにどういうことなのか分からないというふうにイメージを持っていたらしゃるので、多分学校の説明会のときに出たと思うんですけども、実はここに立ち戻って、ここにそのことがまとめてあるんですけども、それをまた説明していかなければいけないと思うので、それぞれの議員さんに再度、朝日と山形のほうの議員さんにこの資料を、前回の説明資料でもいいんですけども、それを使って事前にお知らせをしておいていただければ、ありがたいかな、ちょっとまだ元に戻ってしまうと先に進んでいけなくなっちゃうかなということがありますので、それはお願いしたいと思います。

よろしいですか。

では、議会に出すときのやり方については、また今いただいたご意見を基にもう少し分かりやすく、それから、ポイントを絞って協議事項としていくために、事前に事務局の皆さんと相談をしていきたいと思いますので、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

◎報告第1号 令和6年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会第1回臨時会の日程について

○教育長（伊佐治裕子） それでは、時間がたってしまいましたが、あとはスピードアップしていきたいと思います。

では、報告第1号について、事務局説明をお願いします。

○事務局次長（小西えみ） 資料13ページをお願いいたします。

1の趣旨にありますとおり、令和6年7月19日開催予定の令和6年度松本市・山形村・朝日村中学校組合議会第1回臨時会の日程について報告いたします。

15ページをお願いいたします。

第1回臨時会の日程でございますが、7月19日、金曜日、こちら朝日村役場となります。

1の管理者会でございますが、午後2時30分から開催し、内容欄にお示しの事項について協議をいたします。

次に、本会議は午後3時30分から議員協議会を開催し、議席の指定、教育長の任命について協議を行い、引き続き本会議を開きます。

本会議の日程は16ページに記載のとおりでございます。

また、15ページにお戻りいただきまして、本会議終了後、休憩を取りまして、再び議員協議会を開催し、お示しの5件を報告し、閉会となります。

今、部活が、報告事項に載っていますが、ちょっとまた考えます。

なお、一般質問の通告があった場合には、報告事項の後、一般質問となります。

発言通告の締切りは6月28日、金曜日となっております。

以上、会期1日で開会するというものでございます。

説明は以上です。

○教育長（伊佐治裕子） 部活の報告については協議事項にさせていただきますね。そこはちょっと変更していくということをお願いいたします。

ご質問、ご意見ありますか。

よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◎報告第2号 令和6年度松本市・山形村・朝日村中学校組合第1回臨時会提出 予定議案について

○教育長（伊佐治裕子） それでは、報告第2号に移ります。2号についてお願いいたします。

○事務局次長（小西えみ） それでは、資料17ページをお願いいたします。

令和6年度松本市・山形村・朝日村中学校組合議会第1回臨時会提出予定議案についてでございます。

1の趣旨ですが、令和6年7月19日開会予定の令和6年度当組合議会第1回臨時会への提出議案について報告いたします。

2の提出予定議案ですが、議案第1号 教育長の任命の1件となります。

ページをおめくりいただきまして、第1回臨時会議案（人事案件）と表示されました資料をご覧ください。

おめくりいただきまして、21ページ、議案第1号 教育長の任命についてでございます。
当組合の伊佐治教育長の任期が令和6年7月19日をもって満了となりますことから、申合せによりまして、引き続き松本市教育長であります伊佐治浩子氏を当組合教育長に任命することについて議会の同意をお願いするものでございます。

なお、任期につきましては、資料の訂正をお願いいたします。そちらに令和6年7月19日と記載がありますが、7月20日から令和9年7月19日までの3年間となります。

経歴等につきましては、資料22ページのとおりでございます。

説明は以上です。

○教育長（伊佐治裕子） 説明について、質問、ご意見ありますでしょうか。

よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○教育長（伊佐治裕子） それでは、承認いたしたいと思います。

◎報告第3号 いじめの現状と対応について

○教育長（伊佐治裕子） それでは、報告第3号 いじめの現状と対応について、校長先生、お願いいたします。

○鉢盛中学校長（中川満英） よろしくをお願いいたします。

2番、いじめの現状をご覧ください。23ページになります。

令和5年度はいじめ発生件数は全体で5件ということでありました。

推移につきましては、そこにあるようなところになります。

発見した経緯は、アンケート調査からの回答であり、内容は冷やかしゃからかい、悪口など、またSNS上での誹謗、中傷ということで、重複等ありますので、そのようなところで計5件となっております。生徒が「いやな思い」「苦痛」を感じているものは「いじめ」として積極的に認知を昨年もしました。

3の対応についてであります。まず、いじめられた生徒への対応ですけれども、先ほど申し上げましたようにアンケートや、また生活記録から分かった時点で得た情報を事実確認をし、再発防止に向け、また全職員でも情報共有し、生徒への見守りを行っております。また、保護者とも情報を共有し、生徒の不安感を安心して保護者に話せる家庭での環境づくりを促し、情報共有、スクールカウンセラーとの面談機会も得られるように提案をしております。

いじめた生徒への対応であります。まず事実をしっかりと確認し、対応の方針の下に指導を行うとともに、生徒の保護者に対しても事実と指導の経過を情報共有するようにしております。

また、24ページ、（3）ですけれども、「いじめ追放宣言」の確認と振り返りということで、生徒会生活委員会を中心に行っている「鉢盛中学校いじめ追放集会」を行ってきました。

4番、今後の取組であります。先ほど申し上げましたように生徒との日常の会話や生活

記録、あるいは2か月に一度の「いじめ調査」を実施し、早期にいじめを発見し対応していく、また、見守りを続けていきます。また、鉢盛中学校いじめ追放宣言は6月、今月30日に1回目を行います。また12月にも実施する予定にしております。

また、SNS上でのいじめ等あるということで、今年度も「ネットモラル講座」を5月13日に実施し、対人関係のトラブルの事例などを紹介することで啓発等しております。

以上であります。

○教育長（伊佐治裕子） ありがとうございます。

ご質問、ご意見はありますか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○教育長（伊佐治裕子） それでは、承認といたしたいと思います。

◎報告第4号 「体罰に係る実態把握調査」の結果について

○教育長（伊佐治裕子） それでは、報告第4号 体罰による「実態把握調査」の結果について、校長先生、お願いいたします。

○鉢盛中学校長（中川満英） お願いいたします。

3の調査結果のほうをご覧ください。

令和5年12月に、昨年度行ったものでありますが、生徒、保護者、教職員等、体罰事案はありませんでした。

今後の対応ですけれども、これまでと同様、信頼される学校づくりを目指して全職員で取り組んでいきたいと思っています。

「誓い」を書き、また、その見直しを繰り返しやっていきたいと思っています。

職員会ごとには非違行為防止研修のグループごとでの研修を行っております。特に生徒への暴言を含む体罰については事案からアンガーマネジメントに関する内容を取り上げ研修し合う、また、同僚性を高める研修等も行っていきたいと思っています。

3番であります。いじめを含めまして対応を2か月に一度実施していきます。保護者対象の調査を行うことで状況を確認していきたいと思っています。

今後も体罰根絶のための取組を一層強化していきたいと思っています。

以上であります。

○教育長（伊佐治裕子） ありがとうございます。

ご質問、ご意見ありますか。

よろしいですか。

（「結構です」と呼ぶ者あり）

○教育長（伊佐治裕子） それでは、承認といたしたいと思います。

◎報告第5号 不登校の現状と対応について

○教育長（伊佐治裕子） では、報告第5号を引き続きお願いします。

○鉢盛中学校長（中川満英） お願いいたします。

2の不登校生徒の推移をご覧ください。

一番右側にあります令和6年度は、5月15日現在で登校日数の半分以上欠席している生徒ということであります。

また、3番をご覧ください。

令和5年度の不登校生徒の状況であります。その表にもありますように不登校生は30名と、令和4年度に比べ3名増の結果となりました。9月までは不登校生徒は12名と、令和4年度に比べ非常に少ない状況で推移しておりましたけれども、11月下旬以降、インフルエンザによる学級閉鎖が計5学級発生し、その前後から体調不良者が増加したことが要因と考えております。最終的には30日以上欠席生徒としてカウントする不登校生徒が増加したと思われま。

4番の昨年度の校内教育支援センター及び相談室利用状況であります。

その表にありますように3年生利用者のうち8名は不登校生でしたけれども、「ステップルーム」または「ほっとルーム」を利用することで全員が高校へ進学することができました。

また、今井公民館や山形、朝日のトレーニングセンターで教職員が出向き、不登校生に対応する出張相談室に延べ4名が利用しました。このうち2名は現在4月からの登校につながっております。

5番の本年度の現状とその対応であります。

1番であります。昨年度も行いましたが、グループワークトレーニングを生かした授業改善として、犬飼己紀子先生を講師としてグループワークトレーニング研修に取り組み、これを基にして各教科の授業改善に取り組んでおります。具体的にはその周りから目立ちにくい生徒や学習に苦手意識がある生徒が活躍するような授業展開、また、生徒の発想の豊かさを教師がしっかり気づき、取り上げ、それを生徒とともに楽しむ授業づくりをしていくということで、生徒が学校が楽しいと実感することを目指して取り組んでおります。

また、特別支援教育としても大切に考え、本年度は4月に県発達障害児情報支援センターの宮内かつら先生を講師として特別支援教育についての研修を行っております。この学びから学級活動における生徒の実態を特別支援の視点から取り上げるようにしております。コロナ禍のため友達とうまくいかなかったときの対処法やストレスとの向き合い方など様々な経験が不足している生徒が一定数いるということを感じている現状です。特別支援教育が大切にしている個に応じた指導を教職員一同で意識しながら、様々な生徒を包み込むインクルーシブな取組を積み上げていきたいと思っています。

3番としまして、相談室や校内教育支援センターの体制づくりです。

昨年度に引き続き「ほっとルーム」「ステップルーム」を設けております。本年度はさら

に新たな試みとして、4月に全校生徒へ上記体制についてオリエンテーションを行い、どちらも生徒相談員や自立支援教員が来室する生徒への対応をきめ細やかにしております。そこに、行った結果、現在そこにある27名が「ほっとルーム」「ステップルーム」のところで利用しております。

また、昨年度、相談室を利用した不登校生13名のうち3名、その下の表にあるA生からC生になりますが、学級で生活ができるようになりました。また、DからG生の4名は「ほっとルーム」「ステップルーム」に登校することで欠席日数がそこにあるように少し減り、生活のリズムが整ってきております。特にA生においては進級に伴って学級で過ごすようになっておりますし、進路に向けての意識が高まっております。また、D生はステップルームでタブレットを利用し、授業を受けたいということで、このときは希望と書きましたが、実際にオンラインで教室の授業に参加して学習に取り組んでおります。

29ページです。

地域との連携であります、これまでのように松本市の教育委員会の不登校支援アドバイザーの訪問に併せて3市村教育委員会及び福祉部局、3小学校の教頭先生に同席いただき、連携を図っております。その中で昨年度学校に全く来ることができなかった生徒が週1回山形村の子育て支援課等の送迎により登校できるようになっております。

5番であります。生徒の現状の認識に向けてであります、5月に松本市教育委員会のサポートいただきながらスクリーニング会議を行いました。そのところ、行うことによって具体的に見えたことが多く、現在は県のスクールソーシャルワーカーの方にも入っていただき、個別支援を継続しております。

また、アセスにつきましても実施し、今年度も研修を重ねていきたいと思っております。以上になります。

○教育長（伊佐治裕子） ただいまの説明に対して質問、ご意見のある方はお願いします。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） すみません、ちょっとお願いします。

27ページの下から6行目あたりのところにある、朝日村のトレーニングセンターとありますが、この場所がちょっと違います。

○鉢盛中学校長（中川満英） 違いますね。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） 子育て支援センター。

○鉢盛中学校長（中川満英） 子育て支援センター、申し訳ございません。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） この「ステップルーム」「ほっとルーム」を開設してから、3年目に入るのかな、3年目ですね。とても大きな成果があらわれているなということを改めてこうやって実感をするわけでありますけれども、子供たちもこの「ほっとルーム」「ステップルーム」を、また今年はオリエンテーションをやって、子供たちだ安心してそこに行けるような環境になってきているということをこれを読んで感じました。とてもいい状況になっているかなというふうに思います。

それから、ちょっと下のA生から、A、B、C、D、E、この表なんですけれども、この中でA生が進級に伴って学級で過ごすことができるようになってきたということが提示されているんですけれども、この変化というのはやはり大きなステップ、きっかけになっているということでしょうか。

○鉢盛中学校長（中川満英） はい、子供たちは4月の頭のほうは、ここの7名以外も結構「ほっとルーム」「ステップルーム」に利用しようという生徒が非常に増えたので、子供たちの利用を節目にして、なっているかなというふうに思います。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） それが例えば一つ学級替えが毎年毎年行われているということも一つのステップになっているということ、そういうことかね。

○鉢盛中学校長（中川満英） はい。なので、私としては、ただ子供たち、今コロナ禍もあって非常に対人関係で苦手意識が多いので、やっただけでは多分子供たちはまたそこでのいろんなことがあって難をしていくと思うので、なので、ハッピータイムだとか、そういう子供たちの関わりを必ず定期的に入れていって、本当に学校は学習では楽しさはもちろんですが、人間関係でも楽しさをするということを今仕組んでやっております。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） そういった複合的な取組が功を奏しているという、そんな状況ですか。

○鉢盛中学校長（中川満英） はい。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） ありがとうございます。

○教育長（伊佐治裕子） ほかにいかがでしょうか。

○教育委員（中村八重美） 私は感想ですが、「ほっとルーム」に来ている生徒さんをちょっとお見受けしたりする機会があって、とてもいい対応をしてくださって、個々の生徒さんを大事にしながら取組をしてくださっていて、本当にうれしく感じました。

以上です。感想です。

○教育長（伊佐治裕子） 村山委員。

○教育委員（村山晴美） 前回1月のときの不登校数から、令和5年を見ると、前回のときは12月末という数字を示していただいた中で、今令和5年のところを見ると、最後の3か月で十数人増えてしまうというところが、季節性のものにり患して休まざるを得なかったお子さんがどうしても後半に出やすいという傾向があるのかなと思って、一言の不登校という数字で見るとは何かちょっと毛色が違うというか、理由が違う部分を抱えているのかなというのを感じました。

「ステップルーム」「ほっとルーム」を活用している中で、クラスになじんでいけるお子さんがいるというのは、3月に、卒業式に保護者も全員出て送り出すことができたところに私も出席させていただきましたけれども、そのときに子供たちがクラス、ここで解散だねとなったときに一人一人が一言ずつ発したんですけれども、そのときにうちの子が卒業したクラスは1人も卒業式に欠けることなく出席ができたクラスだったということで、その中で、

例えば「ほっとルーム」なのか、ほかの支援クラスなのかはちょっとそこまでは分からないのですけれども、そこに入っていた生徒さんも、自分から臆することなく、そういったところに自分はいたんだけれども、みんなが自分をクラスに来たときに何のわだかまりとか自分が入りにくさを感じることなく過ごすことができ、自分はこのクラスで卒業を一緒にすることが、卒業証書を受けることができるとてもうれしかったというメッセージがあったのを聞いて本当に涙が出る思いがした。なのでここに書かれているような活動がそこにつながっているというふうに実感したところでもありました。引き続きこういった活動は、やはり形だけではなくて、お互いに心を持って接していかなければいけない部分というのがあるなというふうに思いましたので、続けていくことが地域ともどもできたらなというふうに思いました。

あと一つ、（５）の生徒の現状認識に向けてということでスクリーニング会議など先生方がされているということで、不登校には多分入ってこないと思うんですけれども、遅刻が多いというお子さん、これも子供から当時聞いた話なんですけれども、朝は学校にどうしても何かしらの理由があって来られない、でも給食前くらいに来られるとか、部活だけには来られるというのは、自然にみんな違和感がなく、その時間にその子が来ても、みんな一緒に受け止めて活動できるんだという状況があるようなんですけれども、そういったいわゆる不登校とかというところに入らないお子さんが複数恐らくいらっしゃるというところは、少しこういったスクリーニングとか学校の活動の中で注視していただけることがあればありがたいなというふうに思ったので、今後もこういったところを示していただければ、保護者側も学校への理解がより進むと思いました。

以上です。

○教育長（伊佐治裕子） 根橋委員、どうですか。

○教育委員（根橋範男） いろんな生徒が学校が楽しいと実感する、そういう授業等を含めて対応していただいているということで、鉢盛中学っていい学校だなというように思って、いいなと思っています。

○教育長（伊佐治裕子） そうですね。

私も思いました。私も今回、この中でオリエンテーション、４月に全校生徒にこういうのがあるから、いつでも来ていいよと言ってくれたとか、それが、その一言が学校の雰囲気を柔らかくしていると思うんですね。だから、校長先生が４年目となって、魅力のある学校づくりをずっと続けてくださったその成果が出てきたのかなということを感じております。

引き続き大変だと思うんですが、よろしくお願いいたします。

○鉢盛中学校長（中川満英） よろしく願いします。

○教育長（伊佐治裕子） ほかにほろしいですか。

○教育長（伊佐治裕子） そのほかには何かありますでしょうか。

よろしいですか。

事務局から何かありますでしょうか。

○事務局次長補佐（降旗基） そうしましたら、今皆様のお手元に令和6年度の当組合の日程表を配らせていただきました。今水色に塗っている部分が令和6年度の予定になっております。

本年度は、教科書採択の年になりますので、8月9日、この日に第1回臨時教育委員会というのがあります。

それから、1点、第1回の総合教育会議、12月25日という日程にしてあるのですが、まだ管理者のスケジュールが確定しないということで、場合によっては23日に移行する可能性もありますので、すみませんが、また決まりましたらご連絡のほうをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

○教育長（伊佐治裕子） では、よろしいでしょうか。

◎閉 会

○教育長（伊佐治裕子） 以上で、令和6年度松本市・山形村・朝日村中学校組合第1回定例教育委員会を終了いたします。

大変お疲れさまでした。

会議録調整職員 松本市・山形村・朝日村中学校組合事務局 主事 三浦 佑太

令和6年6月7日

署名議員 百 瀬 司 郎

署名議員 中 村 八 重 美